

# 「家がいいね」 第34号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2007. 3. 10

あえて急ぐな、地球の時の流れを感じよう

関野吉晴さんの2月11日

の進富座でのお話を聴いた感想です。この人は、自分の体で受け止めながら考える人だと実感しました。探険家で医師ですが、現地で生活する家族の中に何度も入り、その生活文化を時間をかけて理解する道を、30年近く歩んでいます。



彼の旅は600万年前に、東アフリカ地域に誕生した人類が、何十万年毎の水河期に追われて凍てついた大地や海峡を渡り、ついには南米最南端に到達した「グレートジャーニー」と重なるものです。辺境をめぐるその旅は、自然と共生する知恵を得た人類が、「消費文明」の波に翻弄される現場でもあります。今まで住んできたようには行かなくなる自然人の悲哀が、記録されています。

私達のように、大量生産・大量消費・大量破棄・効率・スピードの真つ只中にあるものは、それを当然と考えてしまいますが、古代4大文明はいずれも砂漠化を引き起こして消えました。いまや地球全体が疲弊化する速度になっているようです。地球上で最も恐ろしい生物は確実に現代人でしょう。温暖化というソフトな言葉で「やさしく」考えていて良いのでしょうか。都市にあふれる高級品、田舎でも必ずあるユニクロ・百円ショップの洪水が、どこを源とするか考える事が必要です。

あつてはならないことだ

いじめや、製品の不祥事などでマスコミ会見をする責任者が、最敬礼をしますが、その時にこの言葉を決まって喋ります。この言葉は誤りを、さも例外であるかのように言うわけで、問題の追求を滑るような心理がある事を露呈しています。

熊本の「赤ちゃんポスト」報道に、ABEさんも「赤ちゃんは家族の中で育てるべき」と不快だったそうですが、育てられない子が居る現実を見ないのが、美しい国なのでしょうか。プンプン。

患家で、水仙のおもてなしを受けました。

これは日本水仙。ギリシヤの美少年が水に映った我が姿の美しさにみとれて水仙に姿を変



えたとの言い伝えがあり、英名はナスシッサです。さて「情けは人のためならず」との諺がありますが、「情けをかけてはいけない」と現代解釈で良いでしょうか。本当は、「情けはかけましよう」との意味なんですね。で、人のためならずとは？

「がん患者の家族ケア」特別セミナー

みえ生と死を考える市民の会が、市民向けに開催します。



講師 沼野尚美さん（六甲病院チャプレン・カウンセラー）  
「共に生きる道（まんいち、家族が末期がんになったら）」

4月22日（日）10時～11時半

フレンテみえ セミナー室C（三重県総合文化センター）定員100名（事前申し込み制）

地域緩和ケアチームを目指して

南勢地区緩和ケアネットワークの特別講演会です。

講師 小澤竹俊先生（横浜めぐみ在宅クリニック）  
「ホスピスから学ぶ対人援助と安易な励ましではない方法で 癌の患者さんと向き合うために」

日時 4月7日（土） 14時～17時20分

場所 ウェルサンピア伊勢（伊勢市佐八町）

電話 0596・39・1200

会費 500円（当日会場にて）



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

mail [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)

<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>